

往時の賑わいを伝える街道筋の町屋

# 大／阪／の／建／築／まちあるき——「やお・かしわら」

さんだけじゅうたく  
**三田家住宅**



外観



ザシキ



フツマ



土間

所在地： 柏原市今町 1-6-22  
最寄駅： JR 大和路線「柏原」駅  
北へ約 300 m  
見学： 未公開  
文化財指定等：重要文化財  
TEL： 柏原市教育委員会文化財係  
072-976-3430

三田家住宅は、旧奈良街道に面し江戸時代は街道町として、また柏原船仕立て町として賑った今町にある町屋である。

三田家の先祖は、寛永 17 年 (1640 年) に「柏原船」の船持ち「大阪十四人組」の一人として、大阪、伏見町から柏原に移住してきた。これは、江戸時代の元和 6 年 (1620 年) と寛永 10 年 (1633 年) に起こった大和川の氾濫により、柏原村が壊滅的打撃を受け、その復興救済の為、当事の代官「末吉孫左衛門」が柏原村の復旧、再生の策として、了意川に船を通わせようという計画が立案され、寛永 13 年 (1636 年) に舟運を開始した事による。

三代目当主の時代、明和 3 年 (1766 年) から明和 5 年にかけて家の改築を行い、その姿が現在まで残っている。建物は、大きな土間と 2 列 3 室の床上部を持つ間口 7 間、奥行 6 間の主体部に上手にザシキ、ツギノマ、下手前面に納屋、ザシキ背後に土蔵とクラマエが接続するという平面配置となっている。主体部以外は建築年代が少し下がると考えられる。

主屋主体部の床上、下手奥の通常ダイドコロと呼ばれる部屋が後世 2 室に区切られている他はよく当初の形式が保存されている。また、この改築に際し普請関係の「文書」が数多く保存されている。「大工方左官屋根屋手伝諸事覚書」等の 5 点が「建物」と同時に、昭和 44 年国の重要文化財に指定されている。

この文書には、大工、左官等の出勤簿から、工事に携わった延べ人数や建築に要した経費の明細等がこと細かく記録された、貴重な資料である。(辻野忠彦)